

近現代アジア太平洋地域における文化の諸相に見る相関関係

Correlations in aspects of culture in the Asia-Pacific Region in Modern Times

松村 茂樹¹, 渡邊 顕彦², 松田 春香¹, 戸田山 祐¹, 木村 淳³, 利根川 千枝子⁴, 廣野 朱音⁴, 傅 静⁴

¹大妻女子大学文学部, ²大妻女子大学比較文化学部, ³大妻女子大学非常勤講師,

⁴大妻女子大学大学院修士課程

Shigeki Matsumura¹, Akihiko Watanabe², Haruka Matsuda¹, Tasuku Todayama¹, Jun Kimura³,

Chieko Tonegawa⁴, Akane Hirono⁴, and Sei Fu⁴

¹The Faculty of Humanities, ²The Faculty of Comparative Culture, ³Part-time lecturer,

⁴The Master's Program, Otsuma Women's University

12 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, 102-8357 Japan

キーワード：近現代, アジア太平洋地域, 文化, 相関関係

Key words : Modern and contemporary, Asia-Pacific region, Culture, Correlations

1. 研究目的

本研究の学術的背景は、近現代におけるアジア太平洋地域の重要性にある。近代以降、この地域の発展はめざましく、その影響力は世界に及んでいる。一方、この地域には多様な文化が存在しており、相互交流によって、それらの文化の諸相には相関関係が生じている。

本研究の目的は、近現代アジア太平洋文化の諸相に見る相関関係を明らかにすることである。そのために、計8名の研究代表者・共同研究者に加え、「日本文学と世界文学の交差」研究の第一人者である米国ボストン大学准教授 J. Keith Vincent 博士をシンポジウムの基調講演者として招き、米国からの視点も交えて多角的な研究をおこなう。このことにより、今後ますます重要性を増すアジア太平洋地域の将来展望および世界に果たすべき貢献の方向性まで明らかにしたい。

2. 研究実施内容

① 基調講演会

2023年9月25日(月)14:40-16:10, 大妻女子大学千代田キャンパス G311A アクティブラウンジにて、2023年度大妻女子大学人間生活文化研究所 共同研究プロジェクト「近現代アジア太平洋地域における文化の諸相に見る相関関係」(研究代表者:松村茂樹) 基調講演会を開催した。基調講演者は、ボストン大学准教授 Ph.D のキース・ヴィンセント (J. Keith Vincent) 氏である。

ヴィンセント氏は、『漱石の居場所 日本文学と世界文学の交差』(2019 岩波書店)の共同編者を務めるなど、米国における日本文学研究の第一線で活躍している。今回、「「火焰を包みたる氷の如し」正岡子規の従兄弟、藤野古白について」と題し、現在執筆中の著書から抜粋して、日本語で講演いただいた。

講演内容は、明治28年(1895)、正岡子規の従兄弟で、夏目漱石の教え子でもあった藤野古白がわずか23歳で歿した。この将来有望であった作家と子規と漱石との関係の軌跡をたどり、作家の対人関係や喪失と追悼の経験が、創作活動にどのように貢献しているかを探るというものであった。

学内外62名の来場者を得て、質疑応答も活発におこなわれた。参加した学生が寄せた感想文に、「子規は、古白の死後も彼のことを決して過大評価することではなく、ありのままの正直な評価をしていたとありましたが、私は、子規のそうした態度に愛を感じました。その愛とは、俳句に対してと、古白に対してです。」「今回の講演で、物事の奥深くまで探り本質を探究することの重要さや面白さを学ぶことができました。」「初めて海外の方の講演を受けましたが、日本について日本人以上に熟知していたこと、興味を持っていたことにとっても驚いた。」などがあり、来聴者に多大な示唆を与えた。この講演は、メディア教育開発グループの助力により、動画撮影、編集がおこなわれ、人間生活文化研究所の承認を得て、2023年11月10日、『You

Tube』で公開され、2024年3月15日時点で110回視聴されている。

② シンポジウム

また、2023年10月30日(月)、16:20-17:50、大妻女子大学千代田キャンパス H313 講義室で、基調講演会を受けての共同研究者全員によるシンポジウムがおこなわれた。

ヴィンセント氏の講演からインスパイアされた点について各自発言した後、ディスカッションがおこなわれた。その報告「近現代アジア太平洋地域における文化の諸相に見る相関関係—キース・ヴィンセント氏による基調講演会を受けてのシンポジウム記録」を『人間生活文化研究』に投稿する予定である。

3. まとめと今後の課題

上記基調講演会およびシンポジウム開催により、近現代アジア太平洋地域における文化の諸相に見る相関関係が示された。

基調講演会では、ヴィンセント氏が、日本の作品論中心の文学研究では重視されてこなかった作家の心情研究をおこなっていることが明らかになった。これは『古今和歌集』の仮名序に「やまとうたは、人の心を種としてよろづの言の葉とぞなれりける」とあり、さらには中国の『詩経』の大序の中にも「詩は志の之く所なり」とあるような、東洋的な考え方なのではないか。ヴィンセント氏は米国の方であるが、こういった東洋的な考え方を非常

に深いところまで理解し、そういう手法を自身の研究に取り入れている。これこそが、近現代アジア太平洋地域における文化の諸相に見る相関関係の最たる例と言えるのではないか。

そしてシンポジウムでは、共同研究者それぞれの専門分野に照らした発言とディスカッションがおこなわれ、今後の研究の新たな方向性をうちだせた。

4. この助成による発表論文等

① 雑誌論文

[1] 松村茂樹 渡邊顕彦 松田春香 戸田山祐 木村淳 利根川千枝子 廣野朱音 傳静「近現代アジア太平洋地域における文化の諸相に見る相関関係—キース・ヴィンセント氏による基調講演会を受けてのシンポジウム記録」『人間生活文化研究』投稿予定

② 学会発表

[1] 松村茂樹 渡邊顕彦 松田春香 戸田山祐 木村淳 利根川千枝子 廣野朱音 傳静「近現代アジア太平洋地域における文化の諸相に見る相関関係—キース・ヴィンセント氏による基調講演会を受けてのシンポジウム」2023年10月30日(月)、16:20-17:50、大妻女子大学千代田キャンパス H313 講義室

付記

本研究は大妻女子大学人間生活文化研究所の研究助成 (K2313)「近現代アジア太平洋地域における文化の諸相に見る相関関係」(研究代表者:松村茂樹)を受けたものです。